

旭川医大病院ニュース

学長に就任して

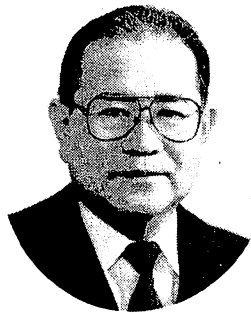
学長 清水哲也

この度、下田晶久前学長の任期満了ご退官のあとを受けて、本学の第四代学長に就任致しまして、その責任の重大さに、まさに身のひきしまる思いです。

皆様のご協力、ご鞭撻をあらためてお願い申し上げます。

今、病院は解決がきわめて困難な幾多の問題に逢着してまいります。

つげ加えて、文部大臣の諮問機関であります大学審議会は、昭和六十二年十月二十九日の文相からの諮問



「大学等における教育研究の高度化、個性化及び活性化等のための具体的方策について」を受けて、「平成五年度以降の高等教育の計画的整備について」の答申を行いました。

例えば、各大学が自由で多様な発展を遂げ得るよう、大学等における教育の基本的枠組を定めている大学設置基準等の諸基準を大綱化する事、各大学等が自らの責任において教育研究の不断の改善を図ることを促すための自己点検・評価のシステムを導入すること等々で、本答申に盛り込まれている内容は具体的には、これからは各大学で創意工夫をこらして、自助努力をしなければ、つまるところは「企業努力」をしなければ、いまま

題字は吉岡元病院長

〔編集〕

旭川医科大学医学部附属

病院広報誌編集委員会

委員長

八竹教授 (泌尿器科)

では、ひなどり(各大学)が、口をあけて「えさ」(予算)ねだりをする、親鳥(文部省)が平等に「えさ」を口のなかに入れてくれたが、これからは、一生懸命にはばたく自助努力をしないひなどりには「えさ」は与えられませんよ——つまり「予算は各大学の実績次第で、傾斜配分をしますよ」ということです。

私どもの仲間同志でも、いい訳、いいのがればかりして実績の華がらない存在は、次第に相手にされなくなるように、たとえ国立大学といえども、炭鉱と同じようにスクラップアンドビルドの対象にしますというご託宣であります。

私もこの厳しい試練に毎年耐えて来ております。つまり「科学研究費」の配分方式です。研究成果を踏まえて、創意工夫に満ちた研究計画を提出して、審査に合格すれば、それなりの研究費配分にあずかることが出来ますが、実績も劣悪、創意工夫もない研究者には情

け容赦なくゼロ回答というのが現実です。

この条件が満たされないと、あの条件がこうだからと自己弁護ばかりしている大学はスクラップの対象になることになりす。

さいわい新病院長に闊達で、進取の気性に満ち、しかも各部門の事情にじつくりと耳を傾ける親分肌の水戸副学長をお迎えすること

就任にあたって

病院長 水戸 迪郎

院長に就任してから、早や二ヶ月が経過した。その間、世の中は益をはさんで、夏期休暇の状態、旭川特有の猛暑もなく、すがすがしい気候であつたように記憶している。が私は、院長職を引き受けてしまい、気ぜわしく、あわただしい日々

の連続であつた。それまでは第二外科長として、院長職になるものは、大学病院のシンボリック的存在である程度に考えていた。

しかし、今年の二月頃から、病院の経営状態の悪化や看護婦さん不足から病棟稼働の削減なる事態にまで追い込まれ、はた目に見て楽そうな院長職がそうそう気楽なものでないことに気が

が出来ました。

この厳しい冬の時代の難局を切り抜けるにはこの人をおいて誰があるかという衆望を担つての登場であります。

どうか水戸病院長を中心にして、病院の総力を結集してこの難局に當つて頂きたいと存じます。皆様力強いご声援をあらためてお願い致します。

付いた。

その院長職に衆望を担つてといえども聞きえがよいが、清水学長に推薦され、教授会の信任投票を経て、席に就くことになった。

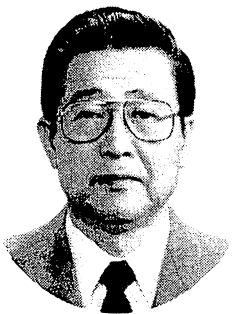
旭川、札幌の関連官庁、病院、付属看護学校の挨拶回りにはじまり、学内各課と看護部とのヒアリング、婦長会、医長会への出席、とどのつまりが、文部省への挨拶回り、兼、状況説明と目が

落ちくぼむほどの精神的、肉体的重労働が続いた。諸々のことを耳にするにつれ、当病院は大変な事態であること、一般病院なら、すでに破産

宣告を受けてもやむをえない状態であることを認識させられた。うしろ立てが国であることが幸いしたのである。ともかく、創設当時の初心にたちかえり、建て直しと言え、古く

新しい言葉、ソ連邦のゴルバチョフ大統領が提唱したペレストロイカである。クーデターに遭遇するが、ペレストロイカとグラスノスチのおかげで、弱体化はしたがゴルバチョフは再び甦り、ソ連、東欧圏が自由経済社会へと向かう速度が加速化されようとしている。当世流にいう世界のトレンドである。

我が国立大学が甦り、新生するには、二度のオイルショックに堪えた日本の企業意識を見習う必要がある。院長は、会社でいえばオーナー社長でない弱さがあるが、一応、社長に相応しよう。ならばと、ある大企業社長の座右の銘、弘法大師の言葉「もの興廢は



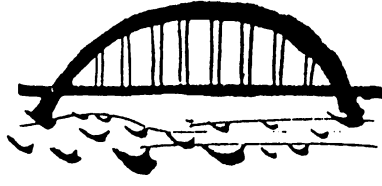
定めて人に在る」を借りることにする。

幸いなるかな、旭川医大附属病院に勤務する職員一人一人は有能で、かつ、多才な方々の集まりである。職員が新しい価値観を持つこと、持つ環境作りをする

こと、それらによって、各自の能力を十分發揮することができるようになり、ひいては病院全体の立て直し、新生に道がひらかれてくるのであろう。

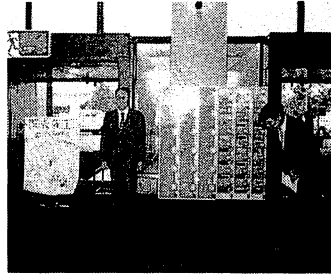
それには、国家公務員の底流に在る親方日の丸の奢りを捨て、自ら選んだ職業を介して、人様に還元する喜びと誇りに転換することである。

おのれ自身も意識を変革し、可能な限り速やかに、可能な限りの職場環境の立て直しを、率先していく覚悟です。職員御一同の御協力を切望してやみません。



昭和六十年八月以来、病院長として務めてまいりましたが、その間、院内の皆さんに多大の御協力を頂きましたことを改めて厚く御礼申し上げます。

在任中、病理部に引き続き輸血部の設置が認められ、病院機能が拡充されました。病院玄関ホールでの退序式



さらに救急部やICUなどの整備が緊急の問題になりましたが、看護婦不足のため今年度の救急部の設置が見送られたことは残念であり、今後可及的早い時期の実現を期待しています。また、院内の電算化に向けて平成二年二月からオーダリングがスタートし、工程が順調に捗っているのは喜ばしいことです。考えてみますと、本院は



昭和五十一年十一月開院以来既に十五年を経過しましたが、その間、本道の必須の中心的医療機関としての役割を果たしてきました。本院で研修を終えた卒業生は二二〇〇名を超え全国津

浦浦浦で活躍しており、医大開設当初言われたような道北の医療過疎の問題が事実上解消された感があるのは、これら卒業生の貢献によるものと言っても過言ではありません。

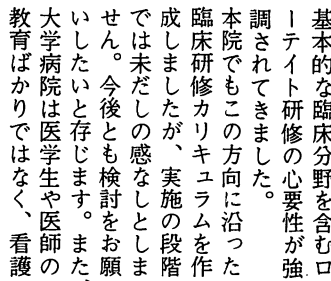
大学病院として考えなければなりません。大学病院として考えなければならず、その基礎に研究にありますが、教育や研究に充実した診療」が行われていることが必要であり、特に看護学生の實習や看護婦さんの教育は今後さらに充実、発展していくことを願います。

近年、医学教育の見直しが問題となり、卒前の臨床實習ではある程度の医療行為を認める方向に進みつつ



ればならぬことは、地域医療における大学病院の位置付けでありましょう。我が国の高く、且つ普及している社会にあつては、大学病院としての特殊性が重要視され、高度の医療と共に他の一般医療施設では対処し難い、大学病院でしか治療し難い疾患に対する医療は特に尊重されねばなりません。今後とも社会が要請するかかる高度の医療が推進される。花束贈呈(岡崎看護部長)

今日、また卒後臨床研修では性急の専門医志向の反省から、プライマリケアや基本的な臨床分野を含むローテイト研修の心性性が強調されてきました。本院でもこの方向に沿った臨床研修カリキュラムを作成しましたが、実施の段階では未だしの感なしと申しません。今後とも検討をお願いします。また、大学病院は医学生や医師の教育ばかりではなく、看護婦さんを始めそこに従事するコ・メディカルの人々の教育の場でもあるわけですから、夫々の部門の指導者はそれらの人々の實習指導に積極的に関与すべきであり、特に看護学生の實習や看護婦さんの教育は今後とも格段の意を使って頂きたいと思つています。



花束贈呈(山本秘書) 院に於ける看護婦の夜勤回数が平均月9.6回という数字に表れています。つまり、社会が要求する大学病院の医療を行うためには、現在の定数ではこのような過重な夜勤回数をを行わざるを得ないということでありましよう。地域医療計画設定に伴う所謂駆け込み増床以来、北海道は他の地域に見ないような病床数当たりの看護婦不足を来まし、本院もこの影響をまともに受けて、事態の打開に苦慮してきました。看護婦不足は、将来の高齢者社会の激化を予想して全国的な深刻な問題となり、政府も本格的に対処しようとしているかに見えます。本院も今後とも多大の困難はありましようが、大局的な見方に立つて、「大学病院は如何にあるべきか」を考え、協力し合つて難しい事態を乗り越えて頂きたいと、退官に当たつて切に願うものであります。



退庁される鮫島前病院長

院に於ける看護婦の夜勤回数が平均月9.6回という数字に表れています。つまり、社会が要求する大学病院の医療を行うためには、現在の定数ではこのような過重な夜勤回数をを行わざるを得ないということでありましよう。地域医療計画設定に伴う所謂駆け込み増床以来、北海道は他の地域に見ないような病床数当たりの看護婦不足を来まし、本院もこの影響をまともに受けて、事態の打開に苦慮してきました。看護婦不足は、将来の高齢者社会の激化を予想して全国的な深刻な問題となり、政府も本格的に対処しようとしているかに見えます。本院も今後とも多大の困難はありましようが、大局的な見方に立つて、「大学病院は如何にあるべきか」を考え、協力し合つて難しい事態を乗り越えて頂きたいと、退官に当たつて切に願うものであります。

診療科紹介 産科婦人科

産婦人科学講座は、清水哲也教授の下に昭和四十九年に開講、昭和五十一年の附属病院の開院と同時に診療を開始した。現在は清水教授が学長に昇任されたため、助教石川睦男以下十八名のスタッフが診療に当たっている。診療内容は大きく三つに分けられる。

産科—周産期医療はハイリスク妊娠を中心に産科外来で妊婦管理を行っている。また一般の妊婦は、医師の定期検診と同時に、助産婦、看護婦の保健指導を受け、さらに三回—コースの産科医、助産婦による母親学級を受講する。切迫流—早産や、胎児異常が予測される症例は、四階西病棟で入院管理を行い、超音波診断などにより胎児の形態異常はもとより、機能異常まで出生前診断を行う。

これらの情報を基に、小児科の新生児班の緊密な協力を得て、周産期難病率、死亡率の減少を目指し、更に月一度の産科医、小児科医、助産婦、看護婦合同の周産期カンファレンスでフイードバックしている。

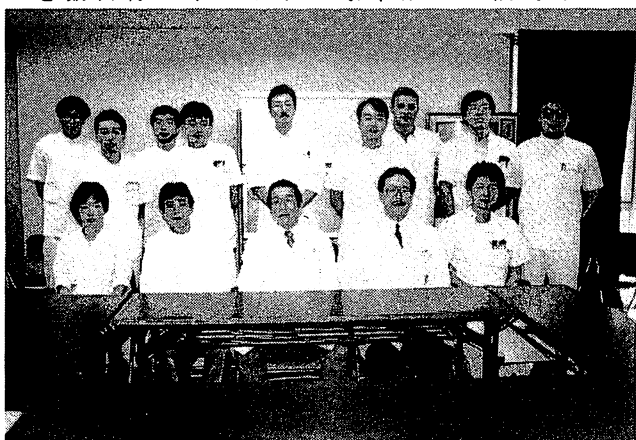
その他、先天異常の羊水、絨毛採取による出生前診断

は遺伝相談も含め外来で行っている。また、習慣流産の診断、治療は、火曜日午後の専門外来と入院管理で行っている。

婦人科—診療の主なものは婦人性器悪性腫瘍で、対癌協会旭川検査センターとの協力体制の中で、子宮頸癌、体癌の早期発見、治療を行っている。火、木曜の手術日には、子宮筋腫などの良性疾患、早期癌の子宮全摘術から進行癌の広汎子宮全摘術まで数多くの手術を行っている。

また、早期発見が困難で、予後不良なため最近注目を集めている卵巣癌については、新たな腫瘍マーカーの研究と超音波パルスドップラーの使用で早期発見に全力を上げている。進行卵巣癌の治療は基本術式、可及的腫瘍摘出後、化学療法施

行後のセカンドルックオペレーションや基本術式に、骨盤、傍大動脈リンパ節の廓清が加わったことで、明らかに延命効果をあげている。しかし、長期予後に関するのではなく、集学的治療を含めた努力をしているところである。



不妊症—生殖医学の進歩により、妊娠率向上のための各種技術革新が進んでいる。中でも体外受精—胚移植は卵管性不妊から適応が拡大され、男性不妊、子宮内膜症、長期に亘る機能性不妊が対象になってきている。

当科の体外受精—胚移植の導入は道内で最も早く、国内でも遜色のない治療成績であるため、全道各地から患者さんが集中し、ベッドのやりくりが大変である。外来診療については、月水の新来は助教石川、金曜日の新来は講師千石、斎藤が担当、更に産科、婦人科再来、不妊症、内分泌、悪性腫瘍の外来を併設している。火、木は手術日、外来医長笠茂が担当する新来のみを行っている。

四階西病棟診療は、月曜の助教回診の後、術前、術後検診を行っている。水曜午後は三班による回診の後、病棟カンファレンスで医師、看護スタッフによる治療、看護方針の決定、確認を行っている。

当科の扱う対象は、出生前の性未分化の胎児から小児期の婦人性器の先天異常、思春期の内分泌異常や神経因性食思不振症、性成熟期の妊娠、分娩、女性性器悪性腫瘍、更年期障害、老年期の骨粗鬆症など人の誕生から死まで女性の生涯という幅広いものである。そのため医師、看護婦の緊密なチーム診療はもとより、各診療科との連携も益々必要となってくると思われますので、宜しくお願い致します。

(助教 石川睦男)

【薬剤部】

副作用情報(2)

非イオン性造影剤の遅発型副作用

非イオン性造影剤は、ヨーロッパにおいて一九八〇年代の初めより使用され、本邦では一九八六年から一九八七年の間にイオパミドール、イオトロラン、イオヘキソールなどが市販され、従来の高浸透圧イオン性造影剤と比較し高い安全性が実証されております。

副作用などの面から比較してみますと、非イオン性造影剤の副作用は高浸透圧イオン性造影剤と比べて約四分の一に低下し、重篤な副作用も約五分の一に低下している。低浸透圧イオン性造影剤との比較でも少ないようである。また死亡率については、従来の高浸透圧イオン性造影剤では数万回に一回程度であったが、低浸透圧(非イオン性、イオン性)造影剤では数十万回から二百万回に一回程度に減少している。造影部位では、血管造影においては疼痛の減少がみられる。さらにイオン性造影剤では、電荷による神経毒性のために用いることができなかった脊髄造影に用いることができる。などの長所があげ

られております。

このように、低浸透圧造影剤(特に非イオン性)が、急性の副作用の頻度およびその程度を減少させ、現在その高い安全性のため、広く普及しております。

しかしこのような状況下で、近年その使用頻度の増加に伴い、非イオン性造影剤に対する新たな問題点として、遅発型副作用に関する報告がみられ始め、注目されております。つまり安全性に関しては、造影剤の投与後すぐに発症する即時型の副作用についてはよく検討されておりますが、遅発型の副作用については、あまり注意されなかったということでもあります。

以下、最近の報告をあげてみますと、即時型の副作用の発症頻度は、非イオン性造影剤においてかなり減少したが、遅発型副作用の発症頻度については、従来の高浸透圧イオン性造影剤との間にはほとんど違いはなく、むしろ非イオン性造影剤の方が高いという報告があります。

他の調査報告では、まず検査種別の遅発型副作用の発症頻度は、造影CT検査によるものが圧倒的に多く、次いでDIPとなつている。症状は、①皮疹 ②消化器症状 ③頭痛 ④皮膚掻痒症 ⑤注射部痛が5大症状

診療科紹介 放射線科

で、その他症状は多彩であり、従来より考えられていた副作用とはかなりかけ離れたものもあり、追跡調査に注意を要する。しかし、わずかな例外を除き重篤なものとは少なく、多くは対症療法にて症状の改善をみている。発症時間は、1〜6時間以内が全体の半数近く、44%で、その後は24時間以内が約30%、さらに48時間以内が14%と、2日以内で全体の87%が発症している。しかし、2日以降7日までの期間にも11%が発症しており、さらに症例数が少ないとはいえず7日以降でもみられている。また、その症状持続時間は2日から7日と長く、2日以内と短いものや7日以降持続するものは希である。と報告しております。

また、遅発型発疹例で、従来の高浸透圧イオン性造影剤では、陽性とならないとされる皮膚テストが陽性となり、化学構造上の親水基の長い側鎖が抗原性を発現し、アレルギー反応を誘発することを示唆する報告もあります。

さらに厚生省医薬品副作用情報No.96(80・5)では、「低浸透圧性造影剤投与後の遅発性のショック」と題して、重篤な副作用の報告例があります。同じくNo.98(80・9)には、解説とし

放射線科の診療について概略を説明致します。放射線科は、放射線を利用して診断や治療を行う科で、総合画像診断部門と放射線腫瘍学部門に大別されます。総合画像診断には、従来の単純、造影X線写真を始め、核医学検査、CTの他、MR、USといった放射線以外の診療手段が含まれます。放射線腫瘍学部門は従来の放射線治療に加えて、化学療法や温熱療法を扱っております。両部門とも診療の性質上各科との関連が深く、また放射線部とは密接不可分の関係にあります。

外来は、火、木、金の週三回開かれ、火、木は天羽教授、菊池助教が担当し血管造影、CT、MR、核医学検査の紹介、放射線治療「X線造影剤による副作用」が記載されております。以上述べてきましたように、非イオン性造影剤は、現時点では最も安全なX線造影剤でありますが、種々の問題点が残されており、今後、遅発型副作用も含めた問題点に関して、幅広い検討が望まれます。

(薬品情報室長 藤田育志)

療のための新来と治療後の検診に、金曜日には主に菊池助教が担当、現在治療中の患者の診察に充てられます。

超音波診断は、天羽教授、斉藤、峯田助手が担当して、外来の一角に最新の機械三台を擁し月一金まで常時週三十名の検査を行い年々増加の傾向にあります。

血管造影は竹井、早坂講師が中心となり外来を通して依頼を受け、腫瘍の進展の診断と動注化学療法、動脈塞栓術を目的として行われます。

CT、MR、核医学検査は主に放射線部を通して行われ、CT、MR検査のうち脳神経については竹井講師が、胸部、腹部、その他については早坂講師が中心となって読影し、レポート

を付け依頼各科に回送する仕組みになっております。核医学は、近年進歩の著しい心臓核医学について、高塩助手が中心となり第一内科と共同で診断に当たり、骨、甲状腺、腫瘍陽性シンチ、その他については斉藤助手が中心となり読影を行っています。



放射線腫瘍学部門は、放射線治療を目的として年に二百例以上の患者を治療しています。開院当初は、進行癌の占める割合が多かったのですが、各科の御理解のもと次第に早期癌の根治

を目的とした症例も増加致しております。また第一位を占めていた子宮頸癌が減少し、以前は殆ど認められなかった子宮体癌が増加し、乳癌の増加と共に日本の癌の欧米化を反映しています。癌の放射線治療は、最近集学的治療の重要性が増し、各科と共同で頭頸部腫瘍、肺癌、悪性リンパ腫、小児癌等、手術、化学療法の併用が積極的に行われ良好な成績が得られております。今後この分野の治療法は各科との円滑な共同のもと増加の一途を辿ることが予測されます。

病棟は、十階東に八床を有し斉藤病棟医長が中心となり診療を行っております。主に化学療法を併用しての悪性リンパ腫や、一日二回照射を行う多分割照射の食道、頭頸部腫瘍の患者が主ですが、近年疼痛除去を目的としての骨転移の患者の割合が増加し癌患者のQOLの向上に力を入れております。

このように放射線科の診療は各科に密接に関係し各科の診断治療の重要な部分を担っています。少数精鋭で頑張っておりますので宜しくお願い致します。

(助教 菊池雄三)

過労死 (Karoshi) は、仕事上の過労やストレスが蓄積して起こす突然死。急性心不全やくも膜下出血など、脳や心臓の疾患が原因である。だが、医学的にも行政的にもそんな言葉はない。一九八二年、それまで「在職死亡」「急性性死」などの言葉で表現されてきた勤務中の脳卒中、心筋梗塞などによる死を「実態を十分に表せない」として、医師らが作った新語だ。定義は「長時間労働のために疲労が蓄積し、過重労働の負担により高血圧や動脈硬化の悪化を招き、脳や心臓系の病気のため死亡すること」である。

昨年の全米ネットの人気番組が「Rich Japan Poor Japanese」というテーマで、日本の過労死を特集し、大きな反響を呼んだそうだ。し連でも「歪んだ日本資本主義の姿」として報道した。また、バカンス先進国であるフランスの政治家に皮肉を言われた。

一方、日本の労働省は過労死労災認定マニュアルを作成 ①発症当時の業務が日常の三倍なら業務上 ②発症前一週間、一日の

休みもなく日常の二倍働けば業務上 ③発症前一週間に一日でも休めば、他の六日間に日常の二倍働いても業務外として、厳しくも一にかけています。労働省は一方では週休二日制を進め、労働時間の短縮をいいつつ、その一方で長時間労働を放置している。

近年の情報化に伴い職場にコンピュータが設置され、機械と向き合う時間が増えた。それでなくとも医療に携わる者は stress が多い傾向にあるが、それが technostress が加わってしまった。たしかにコンピュータ導入にともない恩恵をこうむる面を否定はできない。しかし、疲れるのである。

我々の病院も本年四月より、週休二日制が実施された。しかし、週六日間の仕事を五日間に凝縮したに過ぎないと考えるのは私だけだろうか。企業によつては週休三日制を実施している。しかしながら、時短(労働時間短縮の略)の型は各業種、職種に即応した多様な必要である。アメリカでは sabbatical year といって大学教授に休養や研究



ともかく週休二日制になった。大いに休んでもらいたい(最初は休もうと思うと書いたのだが)。我々は人の命に関わる医療関係者だが「疲れている人は良い人だ」と満足してはいられない。今の御時勢、「仕事が生きています。」とどうも言いづらい。しばし考えてるのは「仕事が好きです。」という言葉が精いっぱいである。

のために七年ごとに一年間の休暇が与えられる。本来の意味は安息の年といひ、古代ユダヤ人が七年ごとに地に安息を与えて耕作を休む年を意味するらしい。我々も四年に一度丁三ヶ月程度の安息が欲しいものである。労働省は九二年までに年間労働時間一、八〇〇時間をめざしている。しかし、その言葉は重たく、手放しに喜べない。医療の現場で働くものにとつて、どの様な安息の取り方がいのであろうか、またそのためにはどうしたらいいか、自ら提案しなければ労働時間一、八〇〇時間の言葉のなかに我々の安息は埋もれてしま

(第一内科助手 松本博之)

職員としてのマインド、団体の結束力

職員テニス同好会

我がテニス同好会を本誌面をお借りして、少しご紹介いたします。

本会は、テニスを純粋なスポーツとして、あるいはレクリエーション的なゲームとして、はたまたストレス解消の手段など、職員の皆さんがそれぞれ自由気ままなスタイルを保ちつつも、一つのコートに集い会い、お互いが楽しく接することを目指して成り立っております。普段この同じキャムパスに生活しながら、口も利いたことがない様々な職種の人同士が、コートに恐る恐る足を踏み入れたにもかかわらず、気がついたときには、その和に溶け込んでなごやかにラリーを続けていた、こんな光景が



着きました。したがって、現在は様々な活動内容を統一化せず、目的はそれぞれ違つても、本学コートでラケットを握る人すべてを会員と認めております。

この活動内容としては、今年で十二回目を迎えた全体行事の会長杯争奪テニス大会をメインとして、非公認式ではあるものの、個人レベルで行っている小グループ



総会を開催のうえ、会則を決定したり、会の運営について種々協議したりしてきましたが、余りにも膨大な人口のため、会費制による会員の統合と総会の開催は困難となり、結局無会費でありながらも、実質的に各自の自発的な活動を中心とした現在のような形に落ち

プ単位でのミニ大会や日ごとの練習の成果の腕だめしに旭川テニス協会主催大会をはじめ各種公式戦への出場等があります。また、団体レベルでも数人で組織し、本学学生テニス部との交歓試合や実業団北海道大会へも毎年遠征しております。昨年のこの大会では、



運良く勝ち進み、男子一部リーグで準優勝という快挙に至りました。この他にも全体行事ではないものを含め、数々の活動を行っておりますが、なかでも会員の多くは、朝の活動が中心で、毎朝ほぼ六時から、ウォームアップもそこそこに、ダブルスのゲームを楽しんでおります。このゲームこそが眠気を我慢してもコートに足を運ばせる理由のようで、約一時間わいわい、きやーきやーコートを駆け巡りそこから一日が始まる、これが生活のパターンになっております。そして力量に無関係で楽しめるため、雨が降らない限り飽きることなく続けられます。早起きは三文の得です。さわやかな朝に睡魔に打ち勝つて、あなたもコートを訪れませんか? きつと楽しいモーニングドライブが始まることでしょう。(幹事 小出隆弘)

旭川市自衛消防訓練大会で好成绩

本学自衛消防隊訓練成果を披露

本学自衛消防隊チームは、旭川市南北消防署合同主催による第七回自衛消防訓練大会において三年連続の上位入賞を果たし、本学の防災に対する日頃の取り組みを市民らに印象づけました。

この大会は、九月十三日(金)旭川市常磐公園内自由広場において開かれたもので、市内の病院・ホテル・デパートなどの自衛消防隊三十一チームが日頃の訓練の成果を披露しました。

この大会は、九月十三日(金)旭川市常磐公園内自由広場において開かれたもので、市内の病院・ホテル・デパートなどの自衛消防隊三十一チームが日頃の訓練の成果を披露しました。

今回は、旭川市常磐公園内自由広場において開かれたもので、市内の病院・ホテル・デパートなどの自衛消防隊三十一チームが日頃の訓練の成果を披露しました。

消防立ち入り検査実施される

さる八月二十七日午後一時三十分から約二時間にわたり旭川南消防署による防火査察がありました。

査察は、本学の建物全てを対象に、避難経路・消防設備の管理状態、各部屋の火元・灰皿等の始末等を重点に八組に分かれて実施されました。

個々に指摘されたものについては既に改善済であります。注意事項は次のとおりです。

○避難経路にあたる廊下等

○階段室に可燃物(本等)が置いてある。

○蛸足配線で電熱器等を使用するなど火災発生原因になる様な危険な所がある。

○防火扉、屋内消火栓ボックスの前には絶対物品を置かないで欲しい。

○灰皿の始末の悪い(くずかごに紙屑と一緒に吸殻が捨てられている)所があり大変危険である。

○職員は、身近な場所の何処に消火器が置いてあるか

連日特訓を重ねる大会に挑みました。

大会当日は、朝から晴天で絶好の大会日和の中競技が開始され、Aチームは七番目、Bチームは二十九番目に出場し両チームとも特訓の成果をいかに発揮し堂々と競技を終了しました。

閉会式の成績発表では、Bチームが四位入賞(入賞は六位まで)となり一同お



等、日常的に防火に対する意識を向上させるよう努力された。

○研究室等で毛布を使用して仮眠をしている状況が見受けられるが、タバコ等の火気の取り扱いには十分注意されるよう指導されたい。

本学の各部署の日常の防火管理は、本学の防火管理規程第五条に基づいてそれぞれ火元責任者において御協力をお願いいたします。

(会計課管財係)

もわずガッツポーズで健闘を讃え合いました。

今大会への出場に当たって選手の間、同僚の皆さんの御理解と過去一回の出場選手の手助け等の御協力に感謝すると

本番さながら消防訓練実施される

さる八月八日(木)午後二時から、本年度第一回目の消防訓練が実施されました。

本学附属病院は消防法で年二回以上の避難訓練を柱に防火訓練の実施が義務づけられており、訓練は本学防火管理規程に基づき、本学自衛消防隊各班を中心とした職員の協力の下に実施されました。

訓練は、五階東棟棟のリネン室で火災が発生、看護職員が発見し、大声で「火事だ」と呼びながら近くの火災報知機のボタンを押し、避難誘導訓練は、当該棟の看護婦・医師の適切な指示と各科の協力医師の素早い行動及び避難誘導班の熟達した行動により完成度の高い訓練が実施されました。

模範患者役の各講座・部・課・施設職員の皆様、御協力に感謝いたします。

初期消火班は、消火器を持って火災現場に駆けつけ



もに素晴らしいチームワークを作り出した選手の皆さんに敬意を表するものです。

さて、来年は、あなたが医大の名譽を背負って出場してください。

(会計課管財係)

「ご意見募集

前号でもお知らせしましたが、オーダリングシステムに関する現場の意見を募集しています。

普段使用していて不便に思っていること、疑問に思っていることなど、どんな意見でもよろしいですから、〇〇〇字以内にとりまして十一月末日までに、庶務課調査係(内線三三三七)までお寄せください。

少しでも多くの方から意見が寄せられることを期待しています。

(病院ニュース編集委員会)

き地において、旭川南消防署の指導による消火器操作体験訓練を実施しました。

最後に旭川南消防署の講評があり、最近の大型火災の実例から初期消火の大切さ、繰り返して訓練を行う事の大切さが強調され、今回の訓練については、避難者に対する情報の提供についてまた消防署との連携について指導があり、全体的には非常に良好な訓練であったとのことでした。

病院長からは、今後なお一層防火体制を強化するため職員の協力をお願いする旨の挨拶があり消防訓練を終了しました。

(会計課管財係)